

## 追悼のことば

本日ここに、埼玉県戦没者追悼式が御遺族代表の方々をはじめ御来賓各位の御臨席のもとに挙行されるにあたり、市町村長を代表して謹んで追悼の言葉を申し上げます。

諸<sup>しよ</sup>霊<sup>れい</sup>は、先の大戦において、苛<sup>し</sup>烈<sup>れつ</sup>を極めた戦いの中で、ひたすら祖国の安泰と繁栄を願ひ、最愛のご家族の安寧を念じつつ、国の御楯<sup>みたて</sup>として戦場に斃<sup>たお</sup>れ、あるいは戦禍の犠牲とられました

戦没者の方々の御心情と御無念を思うとき、万感胸に迫り、痛恨の情を禁じ得ません。

また、最愛の肉親を失いながらも、戦後の混乱の中を生き抜き、立派に御子弟を養育され、地域社会に貢献してこられた御遺族皆様の並々ならぬご労

苦に對しまして、御慰勞を申し上げますとともに、深甚なる敬意を表するものであります。

我が国は現在、戦前には想像もできなかつた繁栄と平和を謳歌しております。

しかしながら、今日においても、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻や地域紛争により、罪のない多くのかげがえのない命が失われている報道を見るにつけ、その惨状に強い憤りと悲しみを禁じ得ません。

また、本年一月には、石川県能登半島地震が発生し、多くの被害をもたらしただけでなく、八月には南海トラフ臨時情報が発表されるなど、自然災害の激甚化・頻発化という苦難にも直面しております。この困難な状況にあつても、共に乗り越え、人々の幸せと平和を願うばかりです。

さて、今日、戦後七十九年が経過し、先の大戦を肌で感じたことのない世代が国民の大半を占める

ようになりました。

私どもは、戦争の惨禍が再び無からんことを心に期し、平和を祈り、未来に向かって、力強く前進することを御霊みたまにお誓いいたします。

結びに戦没者の御霊の安らかならんことをお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様への心の平安とご健勝を祈念いたしまして追悼の言葉といたします。

令和六年十月二十六日

埼玉県町村会 副会長（上里町長）山下博一